2017

M2 カリキュラム

医療概論 II

シラバス

平成 29 年 6 月 29 日～平成 30 年 2 月

2016 年度入学　　第 43 回生用

2017 年編入学　　編入学 17 回生用

医療概論Ⅱ　在宅ケア･行動科学入門など

Coordinator　前野哲博
Sub-coordinator　高屋敷明由美
前野貴美

開講時期:
Ａ在宅ケア、B 行動科学入門/自殺予防プログラム、C プロフェッショナリズム：平成 29 年 6 月 29 日～7 月 7 日、9 月 1，4 日、(地域医療実習は夏休み期間)
D 職種間連携：平成 30 年 1 月 16、23 日
E Medical　English Terminology Ⅰ：平成 29 年 9 月～平成 30 年 2 月
F:情報倫理 9 月 1，4 日

１．コースの概要
Ａ在宅ケア、B 行動科学入門/自殺予防プログラム、C プロフェッショナリズム、D 職種間連携、E Medical English Terminology Ⅰから構成される。

Ａ－１在宅ケアは、将来、医療者として患者を支援する上で重要となる「在宅ケア：生活の場における医療」の実際を学ぶコースである。在宅ケアを受ける患者とその家族の生活を知り、医療関係スタッフが本人の気持ちに配慮しながらどのように患者の生活をサポートしているのかを理解しようとこころがける姿勢を身につけることをねらいとして、在宅医療を受けて生活するケースを通じて考え、また、在宅ケア、地域医療に関連した講義を参考にして具体的なケアプランの討論をＰＢＬテュートリアルで実施する。
Ａ－2 そこで学んだことをもとに、夏休み期間に将来、病院－診療所間でつながりを意識した医療を提供できる医療人になるために、病院と地域で行われている医療の違いを知る第一歩として、茨城県内の地域医療現場で見学実習に参加し、地域医療現場の実際を体験する。

B 行動科学入門では、医療者としてキャリアを切り開いていくため、ライフサイクルの観点から自身の状況を把握し、心身の健康をふりかえり、健康の維持向上に取り組むことをねらいとした講義（一部演習を含む）を行う。自殺予防プログラムでは、セルフケアに加え、自殺予防のゲートキーパーとしての役割を理解し習得することをねらいとした演習を行う。
＊3 年次医療概論Ⅲに含まれる行動科学の基礎編として位置づけている。

C プロフェッショナリズムでは、医師のプロフェッショナリズムについて考える参加型の演習を行い、医学生としての行動規範を自身で作成する。

D 職種間連携は、医療における医療に携わる様々な職種の役割と連携を学ぶことを目的に、茨城県立医療大学保健医療学部 2 年生（看護学科、作業療法学科、理学療法学科、放射線技術科学学科）とともに Team-Based Learning 方式のケース討論を行う。

E Medical　English Terminology Ⅰ は、医学の基礎（臨床系）の各臓器別コースに関係する医学用語を英語で学ぶことを目的にしたもので、各コースのスケジュールに沿って、e-learning および講義を行う。

F 情報倫理　インターネットやメディア活用のルールを、医学生の立場で理解し、正しいつきあい方と行動をとることができるようになるための、基本的な情報リテラシーについての項目の講義を行います。

以下、本シラバスでは、A～C,F について記載する。E は、本コースガイド巻末に記載する。D は 1 月 16 日 3 時限に実施する茨城県立医療大学合同インタープロフェッショナル演習オリエンテーションにおいて、ガイドおよび予習課題を配布する。F の詳細の一部は、当日提示。

２．個別学習目標（コースにおいて学んで欲しいこと）

A－１在宅ケア

１）在宅療養する患者や家族の気持ちを知る
２）在宅療養する患者の実際の生活を知る
３）在宅療養する患者に対する具体的な介護サービスを説明できる
４）介護保険制度におけるケアマネージャーの役割を説明できる
５）在宅ケアに関わる様々な職種の役割を説明できる

A-2 地域医療実習

1)地域で医療・介護・リハビリ等を受けている人たちとのふれあいを通して、その人たちの特徴を述べることができる。
2)医療・福祉にかかわる人達（医療スタッフ、介護スタッフなど）とのコミュニケーションを通して、社会における医療の位置づけについて理解する。
3)在宅で医療を受けている患者さんやその家族とのふれあいを通して、日常生活の中での医療・介護の関わりを知る。
4)医療・福祉・行政の枠組みと連携について述べることができる

B-1 行動科学入門

１）心のモデルと行動のメカニズムを説明できる
２）心の成長/ライフサイクルおよび家族の発達過程を説明できる
３）ストレスの成り立ちを理解した上で、自身のストレス対処法提案し、生活の中で試みることができる

（B-2 自殺予防プログラムについては、当日提示）

C プロフェッショナリズム

１）医師のプロフェッショナリズムの構成を学び、今後、医学生として自分のとるべき行動規範を考え、述べる

F 情報倫理

1)社会人としておよび医療人として、個人情報保護や著作権保護を遵守して正しくインターネットによる情報を使用・発信できる。

３．リソースパーソン

自習やグループ学習で疑問が解決しない時など、積極的に活用して下さい。

教員名	連絡先メールアドレス

A 在宅ケア
前野哲博（総合診療科、地域医療教育学　教授）
高屋敷明由美（総合診療科、地域医療教育学　講師）
大塚貴博（明戸大塚医院　院長、筑波総合診療グループ）
横谷省治（総合診療科、北茨城地域医療研修ステーション　講師）
浜野淳　（総合診療科、医療連携患者相談センター　講師）
吉本尚　（総合診療科、講師）
（A-2 地域医療実習については、5 月配布の地域医療実習ガイドを参照）
B-1 行動科学入門
山海知子（疫学・予防医学、看護学専攻准教授）
横谷省治、高屋敷明由美、吉本尚　（前述）
B-2　自殺予防プログラム
太刀川弘和(精神科、精神病病態医学、保健管理センター　准教授)
C プロフェッショナリズム
高屋敷明由美（前述）
F 情報倫理　　内藤隆（医学教育企画評価室　助教）

４．学習の進め方

A　在宅ケア

オリエンテーション・症例呈示（6 月 29 日　3 時限）　（担当：高屋敷　明由美）

医学類のカリキュラムにおける医療概論Ⅱ全体の位置づけ、医療概論Ⅱのねらい、進め方、評価などをお話します。引き続き、今回のケースの紹介を行います。

医療概論Ⅱの事例提示などの進め方は、医学の基礎コースのテュートリアルとは異なります。

- 29 日のオリエンテーションの中で、シナリオのケース紹介があります。

- シナリオに追加してケースについて知りたいことについて、7 月 3 日 3・4 時限の質問タイムで実際の担当医がグループを巡回した際に質問することができます。
- 7 月 5 日の全体発表は、2,3 時限連続で行います（昼休みをはさまずに)。
- 3 教室に分かれて同時並行で行い、発表終了後に臨床講義室 C に集合して、担当医による総括を行います。

コアタイム 1 （6 月 29 日 5 時限）

各グループで、オリエンテーションの指示に従い討論をして下さい。

グループワーク（6 月 30 日 13 時 45 分～）

コアタイム 1 終了時に配布された資料に基づき、ケースに関してシナリオの患者さん・家族へ必要なサポートの方法を検討するために、どんな情報（患者さんに関する情報、地域の医療保健福祉に関するリソースなど）が必要かについて、討論を進めて下さい。翌日の質問タイムで担当医に聞きたいことを質問項目提出用紙（コアタイム 1 でグループに 1 枚配布（に記し、30 日 16 時までに、高屋敷明由美のメールボックス（3 階ラウンジ）に提出してください。

＊質問はケースに関すること（患者さんや家族に関すること、または医療チーム・他の介護福祉スタッフのこと）に限ります。介護保険制度など一般的な項目は自習して下さい。

ケースに関する質疑応答（7 月 3 日 3・4 時限　*12 時開始　各テュートリアル室）

各グループ 8 分間ずつ担当医：大塚先生にケースに関する質問ができます。各グループの質問予定時刻は下記の通りですが、多少前後することがあります。メンバー全員そろって各テュートリアル部屋で待機して下さい。(各グループで出席をとります)

12 時 00 分～12 時 09 分　19 グループ
12 時 09 分～12 時 18 分　18 グループ
（中略）
13 時 12 分～13 時 21 分　11 グループ
13 時 21 分～13 時 30 分　10 グループ
（10 分休憩）
13 時 40 分～13 時 49 分　9 グループ
（中略）
14 時 52 分～15 時 01 分　1 グループ

コアタイム 2（7 月 3 日 5 時限　）

まず、コアタイム 1 以降のグループ学習や自習の結果を、ケースに関する質疑応答で得た情報も含めて、5 分程度で代表者がテューターにプレゼンテーションして下さい。

その後、各自が勉強した事や担当医から得たケースに関する情報を元に、どんなサポートができるか、討論を進めて下さい。「コアタイム 2 提出シート」に討論の概要を記入して高屋敷明由美のメールボックスまで提出してください。

更に知りたい情報が生じた場合には、4 日 16 時まで担当医の大塚先生（リソースパーソン参照）にメールで質問できます。

グループ学習（7 月 4 日 5 時限　）

コアタイム 2 で提示された課題に従い、グループの発表に向けての討論を行ってください。各グループの個性が出ている発表を期待します（発表の予行を行い、必ず 8 分以内でプレゼンテーションできるように練習してください)。

全体発表会（7 月 5 日 2-3 時限）　（担当：大塚　貴博、高屋敷　明由美、荒牧　まいえ）
場所：4A321（1～6 グループ)、臨床講義室 C（7～12 グループ)、臨床講義室 B（13～19 グループ)

当日、司会とタイムキーパーを指名します。発表 8 分質疑応答 3 分です。

総括　（7 月 5 日 11 時 35 分～12 時 15 分）　（担当：大塚　貴博）
場所：臨床講義室 C

レポート作成　7 月 7 日 1 時限

地域医療実習（7 月 10 日～14 日、8 月 24 日～31 日）

茨城県内の診療所・小規模病院 12 施設の中から、各自 1 施設で半日～1 日の実習を行う。詳細は 5 月に配布した地域医療実習ガイドを、実習施設割り振りは M2 掲示板を参照のこと。
実習直前ガイダンス　（7 月 7 日　5 時限　施設ごとの時間・教室は M2 掲示版参照）

実習全体の注意事項

- 交通費は各自負担です。
- 持ち物は白衣、名札、上履き。（昼食については施設ごとにガイダンスで提示）
- 服装・髪型は清潔感があり、患者さん・患者さん家族からも好感のもたれるようなものとすること。
- 体調不良など急な事情で欠席、遅れる場合には、必ず医学教務(TEL：029-853-3019)および各施設に連絡をすること。
- スタッフや患者さんへの挨拶、自己紹介など礼儀に留意すること。
- 患者さんのプライバシーへの配慮および実習中知り得た個人情報についての守秘義務を遵守すること。

講義演習一覧

A 在宅ケア

	学習項目	担当教員	Keywords
1	家庭医療とは	横谷　省治	家庭医療、患者中心の医療
2	地域医療の現状と課題	前野　哲博	プライマリ・ケア、医師の偏在
3	在宅ケアにおける職種間連携	吉本　尚、 後藤　亮平	多職種連携、職種理解、相互理解
4	地域医療の将来	前野　哲博	地域包括ケアシステム、地域医療構想
5	高齢者の在宅緩和ケア	濱野　淳	緩和ケア、患者の生活、自律、多様性

B、C、F の学習の進め方は、オリエンテーションにて提示。基本的に以下に記す各講義・演習に出席すること。

B－1 行動科学入門

ねらいは、前述（1 ページの１．コースの概要）のとおり。下記の講義に参加した上で、夏期休暇の課題として、行動科学入門のテーマである自身のストレスマネージメントの実践を行い、レポートを作成する。

	学習項目	担当教員	Keywords
1 2	行動科学入門～心のモデルと行動の成り立ち	山海　知子	行動科学、心のモデルと行動の成り立ち、動機付け、ストレスコーピング、セルフケア
3	ライフサイクルにおける青年期の問題	吉本　尚	ライフスタイル、青年期の問題行動、対人関係
4	ライフサイクルと心の発達	横谷　省治	家族の発達段階、ライフサイクル
5	アルコールについて	吉本　尚	適切な飲酒、ビンジ飲酒

B－2 自殺予防プログラム（演習）

	学習項目	担当教員	Keywords
1	自殺予防プログラム	太刀川弘和 石井映美 白鳥裕貴　他	セルフケア、セルフスティグマ、ゲートキーパー

C プロフェッショナリズム

社会から医師に期待されるプロフェッショナリズムについて理解した上で、医学生としてどのような

行動をとるべきか、具体的なケースについて考え討論します。
＊講義開始前に一人一つクリッカーを配布します。

プロフェッショナリズムに関する講義一覧

	学習項目	担当教員	Keywords
1	医師のプロフェッショナリズム	高屋敷明由美	プロフェッショナリズム、医療倫理、利益相反

F 情報倫理

インターネットやメディア活用のルールを、医学生の立場で理解し、正しいつきあい方と行動をとることができるようになる。

情報倫理に関する講義一覧

	学習項目	担当教員	Keywords
1	情報倫理	内藤　隆	守秘義務、インターネットリテラシー

5．参考資料

チャレンジ！多職種連携（在宅ケア版）（コアタイム１でグループに 2 部ずつ配布予定）
埼玉県熊谷市の介護保険資料（コアタイム 1 でグループに 1 部ずつ配布、熊谷市 HP より入手可能）
医療の行動科学Ⅰ　医療行動科学のためのミニマムサイコロジー 山田冨美雄編　北大路書房

6．成績評価

医療概論Ⅱの単位取得条件：前述の A～F 全てに合格していること（一つも D 評価がないこと）。
A～F について、後述の通り参加態度（出席、自己学習を含む）、レポートなどにより評価を行う。
A 在宅ケアのコアタイム・質問タイム、地域医療実習、B 行動科学・自殺予防プログラム、C プロフェッショナリズム演習、F 情報倫理への無断欠席・各レポート未提出のいずれかに該当する場合は、各項目について D となる。レポート提出遅れは減点の対象になる（結果的に D 評価となる場合がある）。
地域医療実習は無断欠席だけでなく、遅刻および実習態度に問題があった場合も D 評価になりうる。
E Medical English Terminology1 の評価基準は巻末資料を参照のこと。

在宅ケアについては、

レポート（後述）提出状況、内容
テューターによる評価表
コアタイム１～２提出シート・グループ発表
自己評価表の提出状況　　により評価します。

＊ レポートについて

A-1 在宅ケア

PBL テュートリアルでの将来に関する討論および関係する講義を通して学んだことの中から 1）最も印象に残ったこと　および　2)将来自分が医師として働く時にこころがけたいことの 2 点を含めて、コアタイム・自習・グループ討論で学んだことをまとめてください。
ワープロソフトを用い、10.5 フォントで A4 用紙 2～3 枚で記入。

＊別途自己評価表を提出のこと

提期間:7 月 7 日 10 時～11 日(火)17 時 15 分　教務前レポートボックス

A-2 地域医療実習

A-1 在宅ケア（テュートリアルなど）で学んだことも踏まえて、1)地域医療実習で実際の現場で学んだことと 2)今後の学びに生かしたいことを自分の言葉で記して下さい。
ワープロソフトを用い、10.5 フォントで A4 用紙 2～3 枚で記入。
締め切り：7 月の実習：9 月 4 日（月）17 時　教務前レポートボックス　（7 月 10 日から提出可）

B－1 行動科学入門

テーマ：自身のストレスマネージメント（夏休みの課題）
講義を通して学んだことを生かして、自身のかかえているストレスをとりあげ、そのコーピングの方法を提案し、実践した経験をレポートにまとめる。講義で学んだことにとどまらず、自分で調べたこ

とを実践に取り入れてもよい。
締め切り：9 月 4 日（月）17 時　教務前レポートボックス
フォーマット：レポートは、下記の構成で記すこと。
1）－1　自身の行動特性
1）－2　自身がかかえている（今後かかえる可能性のある）ストレス
2）ストレスコーピングの方法（ストレスをかかえすぎないようにする方法も含む）
3）実践結果
4）考察
5）参考文献

B－2 自殺予防プログラム
演習当日に課題・提出場所・期限を提示します。

C プロフェッショナリズム
当日ワークシートを配布。演習時の指示に従って記入し、講義終了時に教室内の回収箱に提出する。

F　情報倫理
講義当日に課題・提出方法・期限を提示します。(Manaba による提出を予定)

7．時間割(6 月 19 日～7 月 7 日実施分のみ記入)

	月	火	水	木	金
				6 月 29 日	6 月 30 日
1				関連科目／専門外国語	関連科目／専門外国語
2				体育実技/医学の基礎B	地域医療の現状と課題（前野(哲)）
3				医療概論Ⅱオリエンテーション 事例提示　(高屋敷(明))	在宅ケアにおける職種間連携(吉本、後藤)
				家庭医療とは　　(横谷)	質問項目検討(グループ学習)
				コアタイム１	自習
	7 月 3 日	7 月 4 日	7 月 5 日	7 月 6 日	7 月 7 日
1	総合科目Ⅰ／総合科目Ⅱ	自習	高齢者の在宅ケア(浜野)	医学の基礎B	レポート作成
2	総合科目Ⅰ／総合科目Ⅱ	ライフサイクルにおける青年期の問題(吉本)	発表会 （高屋敷、大塚、荒牧） 総括（大塚） 2,3 時限連続	医学の基礎B	自殺予防プログラム（太刀川　他）
3	質問タイム（明戸大塚医院　大塚貴博） （2 時限目から連続）	グループ学習 （発表準備）		ライフサイクルと心の発達 （横谷）	
4		地域医療の将来 （前野(哲)）	医師のプロフェッショナリズム　高屋敷(明)	行動科学入門(山海)	
5	コアタイム２	グループ学習 （発表準備）			地域医療実習ガイダンス

A 地域医療実習は夏休み期間（7 月 10 日～14 日、8 月 24 日～31 日の一日）
B 行動科学　アルコールについて：9 月 1，4 日
D 職種間連携：秋学期　平成 30 年 1 月 16 日、23 日
E Medical　English Terminology Ⅰ：次ページ参照
F 情報倫理：9 月 1，4 日

M2 Medical English Terminology Course

Coordinator Ms Flaminia Miyamasu

1. This is a course with combined in-class and e-learning components.
   The goal of this course is to develop students' mastery of English medical terminology so that they can function competently in English-language clinical settings as well as academic and research settings. Lectures will be organized according to a body systems approach. To enhance learning efficiency, lectures will be scheduled in the curriculum in tandem with medical lectures about corresponding body systems. In addition, students will be required to fulfill a weekly 1-hour self-study component using the e-learning courseware, *A Systematic Approach to Medical Vocabulary*.

2. Course evaluation:
   - Lecture attendance: 30% (3 absences permitted annually)
   - E-learning study: 30%
   - Quiz scores: 40%

3. Students must complete unit 0 (はじめに) before the first class (September 12). (At least 30 minutes' study)

4. Students must complete at least 1 hour of e-learning study for each of the following units:
   - Gastrointestinal System (unit 5)
   - Cardiovascular System (unit 2)
   - Nervous System (unit 11)
   - Respiratory System (unit 4)
   - Endocrine System, (unit15)

   (The e-learning site and each student's login ID and password are provided on another sheet.)

5. Cheating on tests will not be tolerated.

6. This course will be conducted entirely in English.

7. This course continues into M3 IryogaironⅢ Medical English terminology course, and All students are REQUIRED to take the TOEFL ITP held at the University of Tsukuba at each 3rd year, Or students who can not take TOEFL ITP with some reasons have to take the TOEFL iBT (Students opting for the TOEFL iBT must handle the exam arrangements and costs themselves.) , and the qualification must be obtained before January 31 of M3 year.

8. Ms Miyamasu's email: flaminia@md.tsukuba.ac.jp

9. Lecture schedule

September 12, 26	Gastrointestinal System
October 17, 31	Cardiovascular System
November 21, December 5	Nervous System
December 19, January 16	Respiratory System
January 30, February 13	Endocrine System

M2 カリキュラム
医療概論Ⅱ「在宅ケア」
シラバス

2016 年度入学　第 43 回生
2017 年度　編入学 17 回生

2017 年発行
〒305-8575
筑波大学　医学群